

病害虫発生予察情報 第2号

富山県農林水産総合技術センター所長

5月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期		
水稲	イネミズソウムシ	多い	やや早い	果樹	りんご	キンモンホソガ	並	-	
	イネソウムシ	多い	やや早い			アブラムシ類	少ない	-	
	イネドロオイムシ	並	並		日本なし	黒星病	やや多い	早い	
大麦	うどんこ病	少ない	-			ナシヒメシンクイ	少ない	-	
大豆	タネバエ	並	並			ハマキムシ類	やや多い	-	
	ネキリムシ類	やや多い	早い			ハダニ類	やや多い	早い	
野菜	野菜全般	ネキリムシ類	やや多い		早い	ぶどう	黒とう病	並	早い
	たまねぎ	べと病	少ない		-		灰色かび病	少ない	早い
		白色疫病	少ない		-		べと病	やや少ない	早い
	白ねぎ	ネギアザミウマ	やや多い		やや早い	もも	せん孔細菌病	やや少ない	-
果樹	りんご	黒星病	少ない		早い		モモハモグリガ	少ない	早い
		褐斑病	やや多い		早い		ナシヒメシンクイ	少ない	-
		うどんこ病	少ない	-	花き 球根	チューリップ	褐色斑点病	並	-
		ハダニ類	多い	早い			球根腐敗病	やや多い	-
			モザイク病	やや多い			-		
			アブラムシ類	やや多い			-		

<p>発生量</p> <p>多い : 平年比 141%以上</p> <p>やや多い : 平年比 121%以上 140%以内</p> <p>並 : 平年比 80%以上 120%以内</p> <p>やや少ない : 平年比 60%以上 79%以内</p> <p>少ない : 平年比 59%以下</p>	<p>予報時期</p> <p>早い : 平年値より 6日以上早い</p> <p>やや早い : 平年値より 3～5日早い</p> <p>並 : 平年値を中心として前後 2日以内</p> <p>やや遅い : 平年値より 3～5日遅い</p> <p>遅い : 平年値より 6日以上遅い</p>
<p>予報の根拠中の</p> <p>(+) : 発生量が多くなる要因、(±) : 平年並み発生要因、(-) : 少くなる要因</p> <p>(早発) : 発生が早くなる要因、(遅発) : 遅くなる要因 をそれぞれ示す。</p>	

I 水 稲

1 イネミズゾウムシ

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
発生時期：**やや早い**

- (2) 予報の根拠
- ・前年6月5日の調査では、被害葉率が3.9%と平年(1.3%)より高く、近年は増加傾向にある(図2)。(+)
 - ・5月20日にかけて気温は高いと予想されている。(+)
 - ・4月上中旬の気温は平年より高かった(平年差: 4月上旬 +1.0℃、4月中旬 +3.2℃)。(早発)

- (3) 防除対策
- ・前年度の発生が多くみられた圃場では確実に育苗箱施薬剤等を使用する。
 - ・防除指針: 20~28、36 ページ参照



図1 イネミズゾウムシとその食害

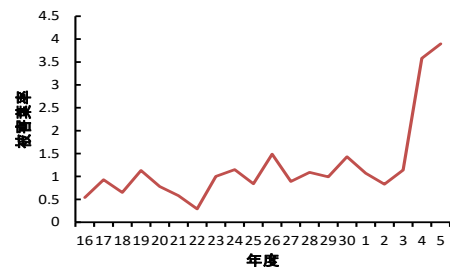


図2 イネミズゾウムシによる被害葉率の年次推移

2 イネゾウムシ

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
発生時期：**やや早い**

- (2) 予報の根拠
- ・前年6月20日の調査では、被害葉率が0.12%で平年(0.03%)より高く、近年増加傾向にある(図4)。(+)
 - ・5月20日にかけて気温は高いと予想されている。(+)
 - ・4月上中旬の気温は平年より高かった(平年差: 4月上旬 +1.0℃、4月中旬 +3.2℃)。(早発)

- (3) 防除対策
- ・前年度の発生が多くみられた圃場では、確実に育苗箱施薬剤等を使用する。
 - ・防除指針: 20~28、36 ページ参照



図3 イネゾウムシ(左)とその食害(右)

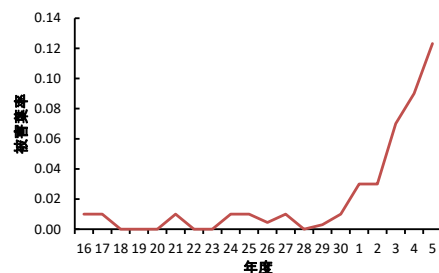


図4 イネゾウムシによる被害葉率の年次推移

3 イネドロオイムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・前年6月5日（被害盛期）の調査では、被害葉率が0%で平年並み（0.00%）であった。（±）
 - ・5月20日にかけて気温は高いと予想されている。（－）
- (3) 防除対策
- ・前年度の発生が多くみられた圃場では、確実に育苗箱施薬剤等を使用する。
 - ・防除指針：20～28、37 ページ参照



図5 イネドロオイムシの幼虫とその食害

Ⅱ 大 麦

1 うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
- ・4月25日の調査では、発病度は0で平年（1.8）より低かった。（－）
 - ・5月20日にかけて気温は高いと予想されている。（－）
- (3) 防除対策
- ・防除指針：50ページ参照

Ⅲ 大 豆

1 タネバエ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・5月20日にかけて降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・タネバエに登録のある種子塗沫剤を使用する。
 - ・早期播種や堆肥及び緑肥施用等、有機物の多いほ場では、被害が多くなるので防除を徹底する。
 - ・ほ場の排水に努める。
 - ・防除指針：53、55 ページ参照

2 ネキリムシ類

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
発生時期：**早い**
- (2) 予報の根拠
- ・ 5月20日にかけて気温は高いと予想されている。
(+)
 - ・ フェロモントラップによる4月17日から4月6半旬の誘殺数は47頭で平年(20.4頭)より多かった。(＋、早発)
- (3) 防除対策
- ・ 出芽後定期的にはほ場を見廻り、食害の早期発見に努める。
 - ・ ほ場周辺の雑草は、は種の一週間程前に刈取る。
 - ・ 防除指針：53 ページ参照



図6 粘着版で誘殺されたカブラヤガ(左)とタマナヤガ(右)

IV 野菜

1 ネキリムシ類

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
発生時期：**早い**
- (2) 予報の根拠
- ・ フェロモントラップによる4月17日から6半旬の誘殺数は47頭で平年(20.4頭)より多かった。(＋、早発)
 - ・ 5月20日にかけて気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・ 出芽後定期的にはほ場を見廻り、食害の早期発見に努める。
 - ・ ほ場周辺の雑草は、は種・定植の一週間程前に刈取る。
 - ・ 防除指針：72～131 ページのネキリムシ類の項を参照

2 たまねぎのべと病

- (1) 予報内容 発生量：**少ない**
- (2) 予報の根拠
- ・ 4月25日の調査では、発病度は0で平年(1.8)より低かった。(－)
 - ・ 5月20日にかけて気温は高いと予想されている。
(－)
- (3) 防除対策
- ・ 発病株の抜き取りを徹底するとともに、分生胞子の飛散による二次感染を防ぐため、薬剤による防除を実施する。
 - ・ 防除指針：102ページ参照



図7 べと病の二次感染株(左)と病斑(右)

3 たまねぎの白色疫病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・これまでの発生量は少なかった。(－)
 - ・5月20日にかけて気温は高いと予想されている。(－)
- (3) 防除対策
 - ・発病株の抜き取りを徹底する。
 - ・本病は水媒伝染するため、降雨前後に防除を実施する。
 - ・防除指針：102ページ参照

4 たまねぎ・白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
 - ・3月下旬～4月中旬までの気温は平年より高かった。(＋、早発)
 - ・5月20日にかけて気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・多発すると生育が遅れるため、発生初期に防除を行う。
 - ・防除指針：たまねぎ103、白ねぎ99～100ページ参照

IV 果樹

1 りんごの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
 - ・前年の発生量は、少なかった。(－)
 - ・5月20日にかけて気温は高いと予想されている。(早発)
- (3) 防除対策



図8 黒星病の初期病斑（左）症状が進行した病斑（右）

- ・落花直後は重要防除時期である。
防除間隔が10日以上開かないように注意する。
- ・耐性菌出現防止のため、DMI剤（混合剤含む）の年総使用回数は2回以内とする。
- ・防除指針：134、136～138、142～143 ページ参照

2 りんごの褐斑病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
 - ・前年の発生量は、やや多かった。(＋)
 - ・5月20日にかけて気温は高いと予想されている。(＋、早発)



図9 褐斑病の初期病斑（左）と進行した病斑（右）

(3) 防除対策

- ・前年に発生の多かった園地や発生が懸念される園地では、薬剤の散布量を十分確保する。
- ・防除指針：134、136～138、142～143 ページ参照

3 りんごのうどんこ病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・現在の発生量は少ない。(－)

(3) 防除対策

- ・り病枝、り病果(花) そうは見つけ次第せん徐し、園地外に持ち出して処分する。
- ・降雨などにより、薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
- ・防除指針：134、137～138、142～143 ページ参照



図10 うどんこ病のり病葉

4 りんごのハダニ類

(1) 予報内容 発生量：多い

発生時期：早い

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は、多かった。(＋)
- ・5月20日にかけて気温は高いと予想されている。(＋、早発)

(3) 防除対策

- ・園地の草刈りを徹底し、下草での増殖の低減に努める。
- ・また、殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に殺ダニ剤を散布する。
- ・殺ダニ剤は散布むらにより効果、残効が低下するので、丁寧に散布する。
- ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、早期防除に努める。
- ・防除指針：139、141～142、144～145 ページ参照

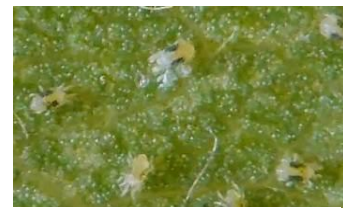


図11 ナミハダニの成虫

5 りんごのキンモンホソガ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる4月1～3半旬の誘殺数は0.3頭で平年(0.7頭)並であった。(±)

(3) 防除対策

- ・発生の多い園地では、5月上旬頃を目途にコンフューザーAAを設置する。
- ・防除指針：134、139～140、143～144 ページ参照



図12 キンモンホソガによる被害葉

6 りんごのアブラムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は少ない。(－)
- (3) 防除対策
 - ・発生が多い園地では、速やかにネオニコチノイド系殺虫剤又はトランスフォームフロアブル(2,000倍)を散布する。
 - ・防除指針：134、140、143～144 ページ参照



図 13 コブアブラムシの被害葉

7 日本なしの黒星病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
 - ・前年の発生量は、やや多かった。(＋)
 - ・5月20日にかけて気温は高いと予想されている。(＋、早発)
 - ・向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・芽基部病斑やり病した葉、幼果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
 - ・耐性菌出現防止のため、DMI剤(混合剤含む)の年総使用回数は2回以内とする。
 - ・防除指針：147、149～151、154 ページ参照



8 日本なしのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる4月1～3半旬の誘殺数は2.0頭で平年(4.1頭)より少なかった。(－)
- (3) 防除対策
 - ・5月中下旬の防除を徹底する。
 - ・防除指針：147、151～152、155～156ページ参照

9 日本なしのハマキムシ類

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・現在の発生量はやや多い。(＋)
- (3) 防除対策
- ・食害果(花) そう及び葉は、摘み取って処分する。
 - ・第一世代幼虫発生時期(5月中下旬)の防除を徹底する。
 - ・発生の多い園地では、ディアナ WDG(10,000倍)を散布する。また、5月上旬頃を目途にコンフューザーNを設置する。
 - ・防除指針：147、151～152、155～156 ページ参照



図15 ハマキムシ食害花そう

10 日本なしのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量はやや多かった。(＋)
 - ・5月20日にかけて気温は高いと予想されている。(＋、早発)
- (3) 防除対策
- ・園地の草刈りを徹底し、下草での増殖の低減に努める。
 - ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に殺ダニ剤を散布する。
 - ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、発生期には園地の発生状況に注意し、早期防除に努める。
 - ・防除指針：152～153、155～156ページ参照

11 ぶどうの黒とう病

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は平年並であった。(±)
 - ・5月20日にかけて気温は高いと予想されている。(早発)
- (3) 防除対策
- ・棚面に残っている巻きひげは伝染源になりやすいので除去を徹底する。
 - ・り病枝やり病葉は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
 - ・防除指針：157～161ページ参照



図16 黒とう病の葉の病斑(左)と果実病斑(右)

12 ぶどうの灰色かび病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかった。(一)
 - ・5月20日にかけて気温は高いと予想されている。(早発)
- (3) 防除対策
- ・開花前から棚面を明るくし、通気性をよくする。また、ハウス栽培では過湿にならないよう換気を行う。
 - ・り病した花穂や葉などは見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生が多い園地では、フルピカフロアブル(2,000～3,000倍)を散布する。
 - ・防除指針：157、159～161ページ参照

13 ぶどうのべと病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかった。(一)
 - ・5月20日にかけて気温は高いと予想されている。(早発)
- (3) 防除対策
- ・り病した花穂や葉などは伝染源となるため、園地外に持ち出して処分する。
 - ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
 - ・発生が多い園地では、5月中旬のマンゼブ水和剤をリドミルゴールドMZ(1,000倍)に変更し散布する。
 - ・耐性菌出現防止のため、リドミルゴールドMZの年総使用回数は原則1回とする。
 - ・防除指針：157～161ページ参照

14 もものせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- ・現在の発生量はやや少ない。(一)
- (3) 防除対策
- ・春型枝病斑は見つけ次第せん徐し、処分する。
 - ・発生が多い園地では、デランフロアブルにマイコシールド(1,500～3,000倍)又はバリダシン液剤5(500倍)を加え散布する。
 - ・防除指針：168、170、172ページ参照



図 17 せん孔細菌病の春型枝病

15 もものモモハモグリガ

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
 発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
 - ・前年の発生量は少なかった。（－）
 - ・5月20日にかけて気温は高いと予想されている。（早発）
- (3) 防除対策
 - ・発生が多い園地では、5月上旬頃を目途にコンフューザーMMを設置する。
 - ・防除指針：168、170～172ページ参照

16 もものナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる4月1～3半旬の誘殺数は1.5頭で平年（2.4頭）より少なかった。（－）
- (3) 防除対策
 - ・発生が多い園地では、5月上旬頃を目途にコンフューザーMMを設置する。
 - ・防除指針：168、170～172ページ参照

IV 花き・球根

1 チューリップの褐色斑点病

- (1) 予想内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・4月20日の予察ほ場（無防除）における発病株率（36.7%）が平年（50.7%）よりもやや少ない。（－）
 - ・5月20日にかけて気温は高いと予想されている。（＋）
- (3) 防除対策
 - ・発病株の抜き取りを徹底する。
 - ・摘花直後に殺菌剤を散布した後、定期的に防除する。
 - ・防除指針：186 ページ参照



図 18 褐色斑点病の小型病斑（左）大型病斑（右）

2 チューリップの球根腐敗病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - ・植え付け時（10月下旬、11月上旬）の地温が高めに推移した。（＋）
 - ・一部で貯蔵中の種球に腐敗がやや多く見られた。（＋）
 - ・5月20日にかけて気温は高いと予想されている。（＋）



図 19 球根腐敗病り病株の生育期後半の症状

(3) 防除対策

- ・発病株の抜き取りを徹底する。
- ・停滞水とならないようにほ場の排水に努める。

3 チューリップのモザイク病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・前年のアブラムシ類の初飛来日（3月30日）が早く、飛来量がやや多かった。（+）
- ・5月20日にかけて気温は高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・モザイク病り病株の抜き取りを徹底し、アブラムシ類を定期的に防除する。
- ・防除指針：187、206～207 ページ参照

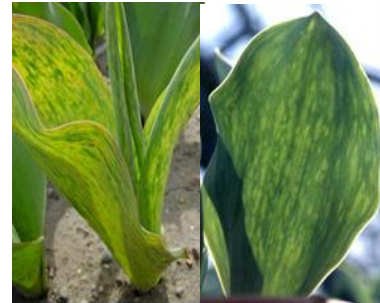


図20 チューリップ条斑病 (TuSV) のり病株 (左)
チューリップ微斑モザイク病 (TMMV) のり病葉 (右)

4 チューリップのアブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・予察ほ場への有翅虫の初飛来日（4月15日）は、平年並（4月16日）であった。（±）
- ・5月20日にかけて気温は高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ほ場周辺の除草対策または、殺虫剤散布を徹底する。
- ・防除薬剤の定期的な散布とモザイク病り病株の抜き取りを徹底する。
- ・防除指針：187、206～207 ページ参照



図21 チューリップに寄生する有翅アブラムシ

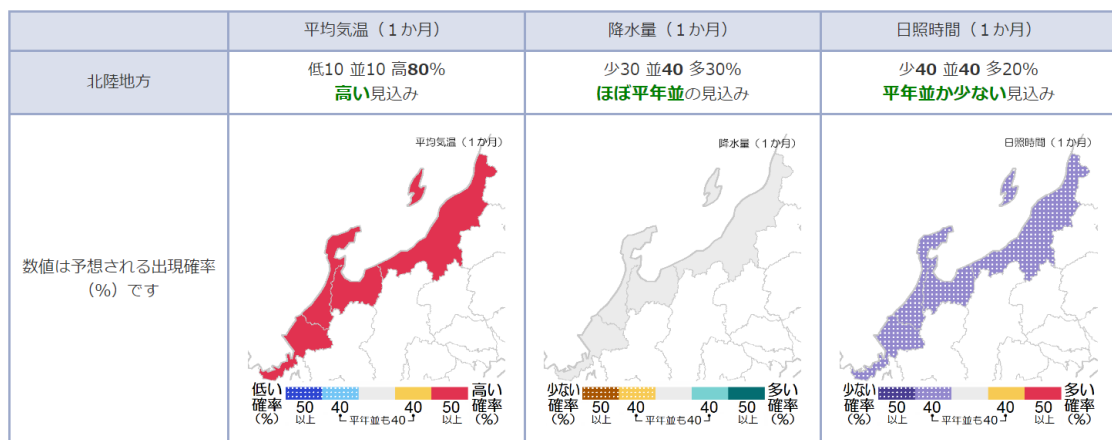
- ・農薬の使用にあたっては、使用回数、使用時期等の使用基準を遵守する。
- ・周辺作物や住宅地等への農薬の飛散防止に努める。

北陸地方 1か月予報

4月18日
新潟地方气象台 発表

<向こう1か月(04/20~05/19)の天候の見通し>

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
- ・低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の日照時間は、平年並か少ないでしょう。



図は気象庁ウェブサイト (<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>) より引用

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課

TEL 076-429-5249

FAX 076-429-7974

情報参考 URL <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

